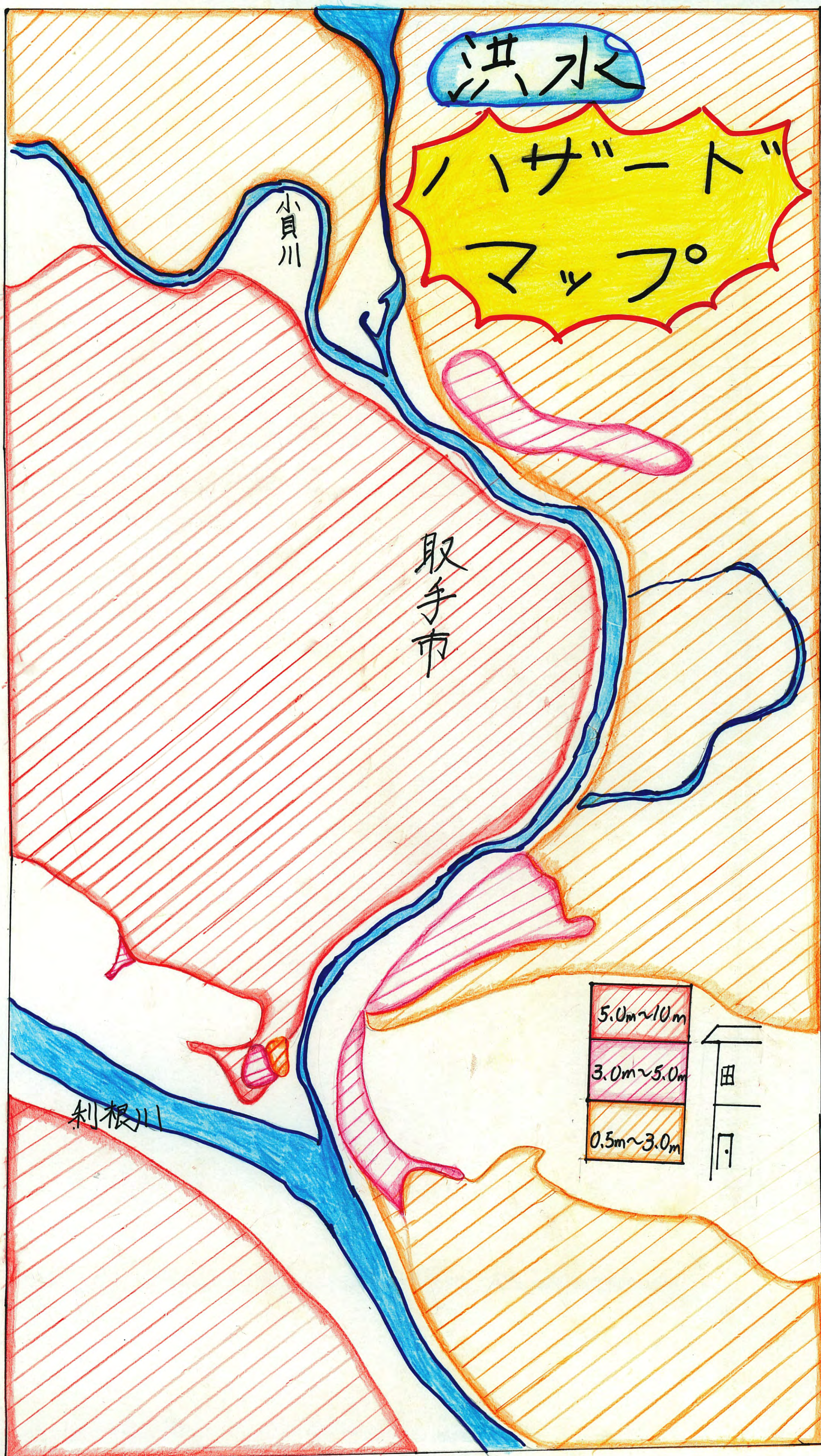
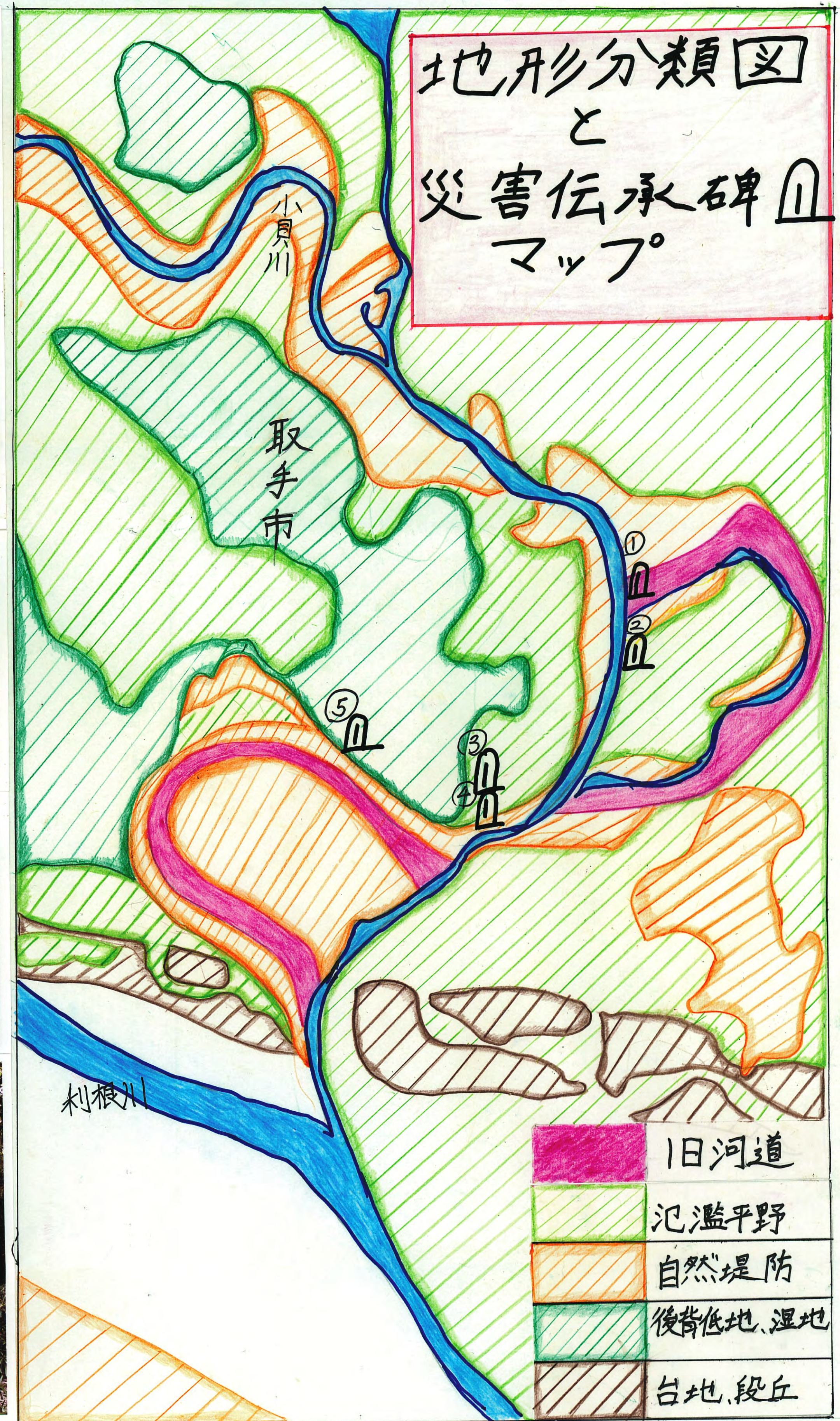


小貝川洪水マップ



- ① 1981年 台風15号
- ② 1935年 洪水
- ③ 1950年 洪水
- ④ 1950年 洪水
- ⑤ 1902年 洪水



きっかけ

近年異常気象の影響で災害が増えています。私の家や学校は河川の近くにあるので洪水が起こったときの影響が気になり洪水について調べました。そして昔起こった災害も気になり調べていたら災害伝承碑というものを知りました。そこで私は身のまわりで災害伝承碑が多くのごされていた小貝川周辺を調べました。

地形分類図

その土地の成り立ちがわかる地図です。調べた小貝川周辺は氾濫平野や後背低地、湿地が広がっていて過去に何回も洪水が起きていた場所でした。

わかったこと

ハザードマップを見ると、災害伝承碑が多くあった場所は今でも洪水の危険が高いところでした。地形分類図を見ていると、小貝川は洪水になりやすい地形であるとわかりました。

ハザードマップ

自然災害における被害の軽減や防災対策に使用する目的で被災想定区域を示した地図です。自宅と学校小貝川周辺のハザードマップを見たところ、自宅は3mから5m、学校は5mから10m、小貝川の湾曲部の内側は5mから10m、外側は0.5mから3m浸水することわかりました。

まとめ、感想

実際に小貝川周辺の災害伝承碑がある場所に行ってみると、田んぼが多くあったため被害が大きかったのだと思いました。昔の川の流れが道として残っていて、その流れは湾曲していました。ハザードマップには問題があります。ハザードマップは中小河川についてのせなくてもよいので、中小河川が氾濫した場合、被災想定区域に入っていない場合でも、洪水に巻き込まれることがあります。ですから被災想定区域に入っていないからといって油断はせず、しっかりと対策、避難をしてください。

出典

国土地理院 地理院地図
<https://maps.gsi.go.jp/>
 国土交通省 河川課 魚沼ハザードマップ
<https://disa.portal.gsi.go.jp/>